

ジムのケースで、ジムが一人を殺さないこと
が有意義であるのは、あくまで彼本人に焦
点を結ぶ場合である。なぜ他者を中心にした
態度をとらないのかと言え、ジムは「自己
善」しか射程に入れていないからである。他
方功利主義なら、他者一般を問題にし、それ
を平等に愛する「世界の善」を志向している。
とくに「功利主義」を越えて、他者を平等に
愛する「真正の隣人愛」と言うべき「功利の
態度」は、倫理の理想形態と言えられるかもしれ
ない。それに照らすなら、「自己善」は、他
者の善のみならず、自己の善にかかわり、ま
ったき「利他」に立つことができない（フイ
ニスの倫理の限界）。その観点から言えば、「
自己善」は狭隘な見方であるし、それに重なる
フーコーやセンの倫理観は、「世界の善」
に対して倫理的に劣ると批判することもでき
よう。もとより「自己善」は、自己で完結し
ている強みもあるが、ともすれば他者を視野
に入れにくい、という難点を指摘できる。